お問い合わせ・アクセスマップ

公立大学法人

神奈川県立保健福祉大学

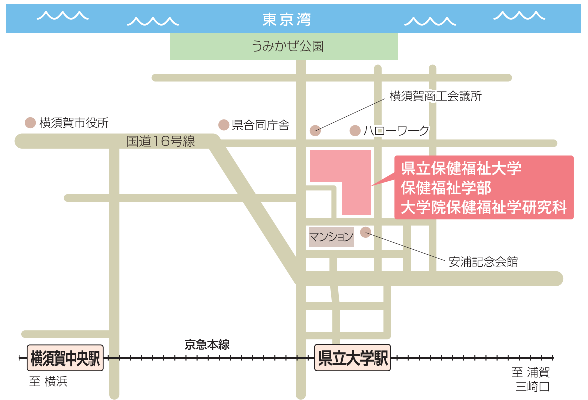
KANAGAWA UNIVERSITY OF HUMAN SERVICES

〒238-8522 神奈川県横須賀市平成町1-10-1

https://www.kuhs.ac.jp/

代表電話・総務課	046-828-2500
財務課（授業料）	046-828-2513
教務学生課（教務・学生生活）	046-828-2525
企画・地域貢献課（入試）	046-828-2530

県立保健福祉大学保健福祉学部・大学院保健福祉学研究科



公立大学法人　神奈川県立保健福祉大学

大学院保健福祉学研究科

KANAGAWA UNIVERSITY OF HUMAN SERVICES

GRADUATE SCHOOL

GUIDEBOOK 2025

県立保健福祉大学の校章

大学のミッションである
ヒューマンサービスの実現と、
未来に伸びてゆく学生の若さ、
活力を表現しています。

ごあいさつ

理事長
大谷 泰夫

急速に進む少子高齢化に伴う社会の変化は、新たな問題や課題を生み出しています。本学では、こうした変化や新しい課題に対して積極的に対応していくことが大学としての使命であると認識しています。

保健福祉学研究科では新たな問題への対応力を備え、保健・医療・福祉分野のリーダーとして地域社会を牽引する人材を育成します。

また、本学では個々の専門性を高めるとともに、保健・医療・福祉に関わる広い理解をもって、他領域とも連携・協働できる力を身につけることができるよう、異なる領域の専門職同士が共に学ぶ機会を提供しています。これは、「ヒューマンサービス」という本学のミッションのもと、「人(ヒューマン)」を深く理解し、人の温かみを失わない保健・医療・福祉サービスを提供できる高度専門職を輩出したいと考えているからです。

現場での実践と研究の循環の中で生み出された成果を社会に還元していく、その志を持った教職員と学生の仲間が本学でみなさんをお待ちしています。

学長
村上 明美

わが国では少子高齢化が急速に進み、すでに人口減少が始まっています。世界では紛争危機により国家間秩序は揺らぎ、気候変動に関連して大規模災害が多発する等、人々の健康や生活を脅かす多様な社会問題が顕在化しています。

本学はヒューマンサービスをミッションに掲げ、保健・医療・福祉の連携と総合化、生涯にわたる継続教育の重視、地域貢献を基本理念としています。保健・医療・福祉にかかわる専門職は、いのちの誕生から終焉にいたるまで、「ひと」の健康や生活に深くかかわり、人々の安寧を守る活躍が期待されています。

大学院は、専門分野における研究能力や高度専門職業人に必要な卓越した能力を修得する高等教育機関です。保健福祉学研究科では、健康や生活にかかる課題について広く学識を身につけ、研究に取り組んでいただきます。本学での学びがヒューマンサービスの実現にどのようにつながるかを常に意識して、主体性をもって創造的に探究してください。

だれも排除されることなく、ひとりひとりが大切にされ、その人らしく生きられるよう、ヒューマンサービスの実現に向けたアカデミックな活動を期待します。

保健福祉学研究科長
鈴木 志保子

保健福祉学研究科は、博士前期課程が2007年に、博士後期課程が2017年に開設されました。現在、高度専門職業人としてヒューマンサービスをミッションに掲げて育成した修了生たちは、保健・医療・福祉分野における次世代の高度実践者・教育者・研究者となり社会で活躍しています。

博士前期課程では、看護学・栄養学・社会福祉学・リハビリテーション学の各領域における専門的な研究の基礎を身につけることにより、知識を深め、課題を探求していく能力を培うことを基本としています。

博士後期課程においては、各領域における専門的な研究を基盤として、保健福祉学の発展に寄与する先端的な研究成果を産出できる研究者の養成を行っています。また、専門性の壁を乗り越え、保健福祉学の研究領域を構築し、最終的に保健・医療・福祉における基礎・応用・開発研究の成果を広く国内外に発信していくことを期待し、育成しています。

保健・医療・福祉の現場での諸問題について探究や保健福祉学の更なる発展のために、高度専門職業人として学際的に課題解決にあたることのできる人材、実践と研究を継続して行っていくことができる人材、その中でも熱意あふれる方々をお待ちしています。

大学院の特色

「ヒューマンサービス」に基づく領域を超えた学び

本学では、「ヒューマンサービス」をミッションとし、それぞれの専門領域のみならず、総合的な幅広い知識と技術を身につけ、トータルな保健・医療・福祉サービスを提供できる人材の育成に努めており、領域を超えた学びの機会を提供しています。例えば、博士前期課程の必修科目となっている「ヒューマンサービス特論・演習」では、ある事例に対して看護、栄養、社会福祉、リハビリテーションの各領域の学生たちがそれぞれの立場から検討して、意見を交わします。

専門領域の異なる学生との意見交換を通して、1つの問題に対する様々なアプローチや考え方を学ぶことができます。

働きながら学ぶ学生を支援

長期履修学生制度(博士前期課程のみ)

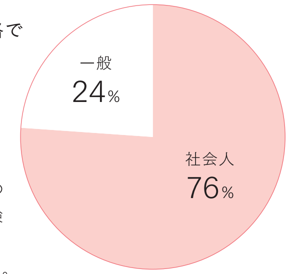
職業を有する等の事情により、定められた修業年限(2年)では教育課程の履修が困難な方を対象とした制度です。長期履修学生の授業料は、設定した履修期間に関わらず、原則として標準修業年限の2年分の授業料となります。博士前期課程の学生の約46%※がこの制度を活用して学んでいます。※2024年4月現在 ※休学者を除く

<授業料納付額例>

	1年目	2年目	3年目	4年目	修了までの納付額合計
通常の履修	535,800円	535,800円	—	—	1,071,600円
3年間の長期履修	357,200円	357,200円	357,200円	—	
4年間の長期履修	267,900円	267,900円	267,900円	267,900円	

<社会人特別選抜出願資格で入学した学生の割合(博士前期課程)>

※2024年4月現在
※社会人特別選抜出願資格とは、社会人として保健・医療・福祉の関連分野で3年以上の実務経験を有するなどの方です。
詳細は募集要項をご覧ください。



平日夜間、土曜開講

授業は平日の夜間(午後5時55分～午後9時)と土曜日の昼間(午前9時～午後5時50分)の時間帯を中心に開講されます。主として夏季の休業期間を利用した集中講義なども活用し、働きながら学びたい方にも配慮しています。

教育訓練給付制度

博士前期課程(栄養領域、社会福祉領域、リハビリテーション領域)が専門実践教育訓練講座に指定されました。
一定の条件を満たす場合、入学料・授業料等の一部が支給されます。申請条件等詳細については、厚生労働省のHPをご覧ください。
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/kyouiku.html

厚生労働省HP

学習環境

大学院生は、院生研究室内の個人ブースでパソコンを使用することができ、集中して自習できる環境にあります。

附属図書館は、看護、栄養、社会福祉、リハビリテーション各分野の専門図書や学術雑誌を中心に、関連領域の資料を幅広く所蔵しています。図書や雑誌などの閲覧・視聴覚資料の視聴、データベースが利用できます。

大学院事務室は、平日は20時まで開いており、証明書等の発行や各種申請の受付など、学生生活のサポートをしています。

図書館

大学院事務室

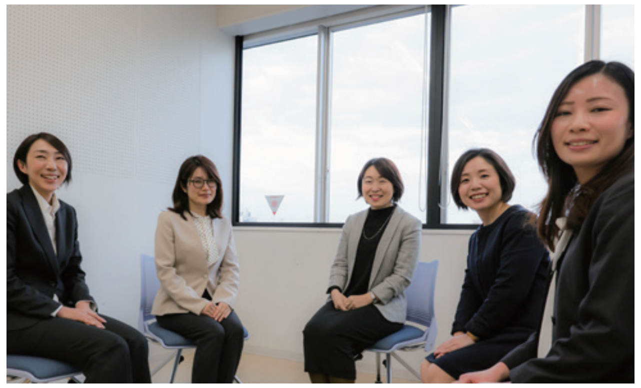
博士前期研究室

博士後期研究室

「働きながら学ぶ」

学生×教員 対談企画

仕事と学業を両立させながら
博士前期課程(栄養領域)を修了された
伊藤彩香さん、田中紀子さん、宮司智子さん、
現在、博士後期課程(栄養系)に所属している
福岡梨紗さんと、指導教員の五味先生に
お話を伺いました。


宮司さん　福岡さん　五味先生　田中さん　伊藤さん

五味：皆さんの大学院に進学したきっかけや大学院で学んでよかったことなどについて教えてください。

伊藤：私は大学病院で管理栄養士として勤務していますが、臨床現場における栄養管理業務の成果をまとめる技術を習得したいと思ったことがきっかけです。また、オンライン授業が導入されたことも進学を決断する意味で大きかったです。これまで、仕事をしながら研究をすることも大事だとはわかっていてもなかなか取り組めないでいました。でも、進学してその環境に身を置くことによって、仕事をしながらでも研究のための時間は作り出せることがわかりました。

田中：これまでも最新の知見を得ようと学会には参加していました。そこで統計手法を理解できるようになりたいと思ったのが進学をしたきっかけです。実際に履修してみて、大学院は教えてもらうというより自分で学ぶという姿勢が大事だということが身にしみてわかりました。統計手法についても以前よりも理解できるようになってきました。

宮司：周りの方たちから、大学院に進んだ方が良いと言われていましたが、子どももいるため、タイミングがつかめずにいました。ですが、伊藤さんと同様にオンラインで授業が受けられると知ったので思い切って受験しました。学会に参加して自分も発表を経験しましたし、他の研究発表も以前に比べて理解できるようになってきました。まだ理解できないことがあると悔しいという気持ちになり、これからも勉強は続けていかなければいけないな、と思っています。

福岡：博士後期課程に進学した理由は、前期課程が修了して身につけた研究手法だけではまだまだ足りないな、と思ったこと、さらに、現在は本学で助教をしていますが、教員として研究を進めるためには「博士」の学位が必要だと思ったことです。仕事とのやりくりは大変ですが、同期の院生の方たちにも支えられて頑張っています。

田中：本学で学んでよかったなと思うのは、他領域の院生と一緒に講義を受ける機会があったことです。他職種の考え方は参考になりましたし、私たち管理栄養士の専門性を知ってもらえる機会にもなったと思います。

五味：管理栄養士としての経験年数がそれなりにあるがゆえの進学だったかと思います。職場では役職の業務もあって、授業や研究との両立は大変だったと思います。伊藤さんや田中さんは長期履修学生制度も活用しながら計画的に研究を進めてきました。何よりも、こうして似た境遇で共感しあえる同じ研究室の仲間がいたのは良かったですよね。今後は、皆さんの研究成果を学術雑誌に投稿していただきたいと思っています。

大学院の特色について

保健福祉学研究科 副研究科長
水戸 優子

対面とオンラインのハイブリッド型授業

本学大学院は、より高度な対人サービス・ケアの知識・技術・態度の育成のために、教員と学生、学生と学生が直接会って対面で学ぶ授業を大切にしております。一方で、働きながら学ぶ学生や遠方から通う学生が授業に参加しやすいように、オンライン授業が可能な通信環境・設備を整備しております。この両方の授業のよいところを活かすために、横須賀キャンパスの教室とオンライン授業を組み合わせたハイブリッド型授業やハイフレックス型授業を導入しています。

博士前期課程

看護領域／栄養領域／社会福祉領域／リハビリテーション領域

取得できる学位

修士（看護学）	Master of Nursing Science
修士（栄養学）	Master of Nutrition & Dietetics
修士（社会福祉学）	Master of Social Work
修士（リハビリテーション学）	Master of Rehabilitation Science

取得できる資格・免許

看護領域（助産実践コースのみ）	助産師国家試験受験資格
看護領域（選択希望者のみ）	養護教諭専修免許状（予定）
栄養領域（選択希望者のみ）	栄養教諭専修免許状（予定）

教育理念

少子高齢社会の進展に伴い、療養・介護期間の長期化への対応や在宅ケアの拡充と質の向上、利用者本位のサービス提供の基盤づくりなどの課題が増大しており、高齢期においても住み慣れた地域で質の高い生活を送れるような保健・医療・福祉の連携した取組みが求められています。

このようなニーズに応えるため、本学大学院博士前期課程では「保健・医療・福祉の連携と総合化を念頭に置きつつ、これらを全体的に理解するとともに、各学問領域の専門性を深める教育・研究の推進」を目的として、保健・医療・福祉にかかわる広い理解をもってそれぞれの分野と連携・協力をめざすことのできる高度専門職業人を育成することを目標にしています。

教育目標

01 保健・医療・福祉の諸問題について、現場で実践した内容を体系的に整理し、社会へ発信できる能力を持つ人材の育成

02 行政・施設・地域などの現場において、リーダーまたは管理者として活躍できる人材の育成

03 現場で働く社会人を受け入れ、実社会で身につけた実践的な知識・経験を学問的に検証しつつ、さらにこれを高めていく人材の育成

アドミッション・ポリシー

01 人や人を取り巻く社会に関する深い理解を求め、保健福祉学の探求に自ら取り組む意欲のある人

02 専門職や当事者と協働し、各種システムと連携して、課題を解決し、評価する能力を高めたい人

03 保健・医療・福祉の課題を、科学的・論理的に研究するための基礎的な能力を備えている人

04 地域社会の保健・医療・福祉分野のリーダー、管理者または教育者として貢献する意欲のある人

※さらに領域毎に具体的なアドミッション・ポリシーを定めています。

入学者選抜試験では、以上の観点に立って、筆記試験においては専門知識などを、面接選考においては課題解決へ向けて意欲的に研究に取り組もうとする力を、総合的に評価します。

学位取得までの流れ 博士前期課程

	時期	修士論文・課題研究論文	
1年次	4月	●入学	履修計画相談 指導教員の希望
	5月		
	6月		研究課題決定
	7月～3月		研究計画立案遂行
修了年次	4月	●研究倫理審査（必要に応じて）	↓
	5月	●研究計画報告書提出	
	6月～9月	中間発表会（領域ごとに開催）	修士論文の作成
	10月		↓
	11月	●論文審査申請	
	12月		
	1月	●修士論文の提出 ●最終試験	
	2月		
	3月	●論文発表会 ●修了	

※看護領域のCNSコース（課題研究論文）は、取扱いが異なります。
※大まかな流れとなりますので、詳細については別途お問合せください。

教育カリキュラム

保健・医療・福祉の現場で得た知識・経験を学問的に検証するとともに、理論化していく力を身につけることができるカリキュラムとなっています。また、実践の場において、リーダーや管理者として活躍できるような学びを得られる科目を設定しています。

博士前期課程では、全ての領域が文部科学大臣認定「職業実践力プログラム（BP）」を取得しています。

Brush-up Program for professional

共通科目

基幹科目

全員必修となっており、保健・医療・福祉の実践・研究を進めるにあたり、ヒューマンサービスというより広い視点からそれぞれの専門性を見つめ直します。（ヒューマンサービス特論・演習）

基礎科目

研究課題を探求し、修了後も研究的な視点で課題解決に取り組んでいくことのできる基礎的な能力を培うことを目的とした科目です。（研究法Ⅰ、Ⅱ）

連携科目

保健・医療・福祉の各分野の枠にとらわれない幅広い知識を習得し、他分野との連携・協働を図ることのできる能力を育成するための科目を設けています。

- 政策・行政（保健福祉行政特論）
  自治体などの行政機関で保健・医療・福祉に関連する政策立案などを担当する人材を想定した科目
- 管理（人事管理・育成論）
  保健・医療・福祉に関連する施設などの管理・運営を担当する人材を想定した科目
- 地域（ケアマネジメント・地域ケア特論）
  地域に根差し、在宅介護等の保健・医療・福祉サービスの提供を行う人材を想定した科目
- 専門連携（コンサルテーション論）
  専門職間の理解と連携を学ぶことを狙いとした科目

＋

専門科目

看護領域の専門科目

科目例　看護管理学・政策特論、ウィメンズヘルスケア特論、慢性看護学特論、地域看護学特論、精神保健看護学特論 など

看護CNSコースの専門科目

日本看護系大学協議会において高度実践看護師教育課程の承認を受けて、がん看護と小児看護のCNSコースを設置しています。

科目例　がん看護学特論Ⅰ～Ⅳ、小児看護学特論Ⅰ～Ⅴ など

助産実践コースの専門科目

助産師国家試験受験資格を取得するコースを設置しています。

科目例　助産学概論、助産基礎特論Ⅰ・Ⅱ、助産診断技術特論Ⅰ～Ⅲ、助産実践演習Ⅰ・Ⅱ、助産学実践実習　など

養護教諭 専修免許状取得カリキュラム（予定）

2025年4月より、養護教諭専修免許状取得のためのカリキュラムを設置予定です（文部科学省へ認定申請中）。ただし、文部科学省における審査の結果、カリキュラム設置時期等が変更となる可能性があります。

栄養領域の専門科目

科目例　人間栄養学、栄養ケア・マネジメント特論、臨床栄養学特論 など

栄養教諭 専修免許状取得カリキュラム（予定）

2025年4月より、栄養教諭専修免許状取得のためのカリキュラムを設置予定です（文部科学省へ認定申請中）。ただし、文部科学省における審査の結果、カリキュラム設置時期等が変更となる可能性があります。

社会福祉領域の専門科目

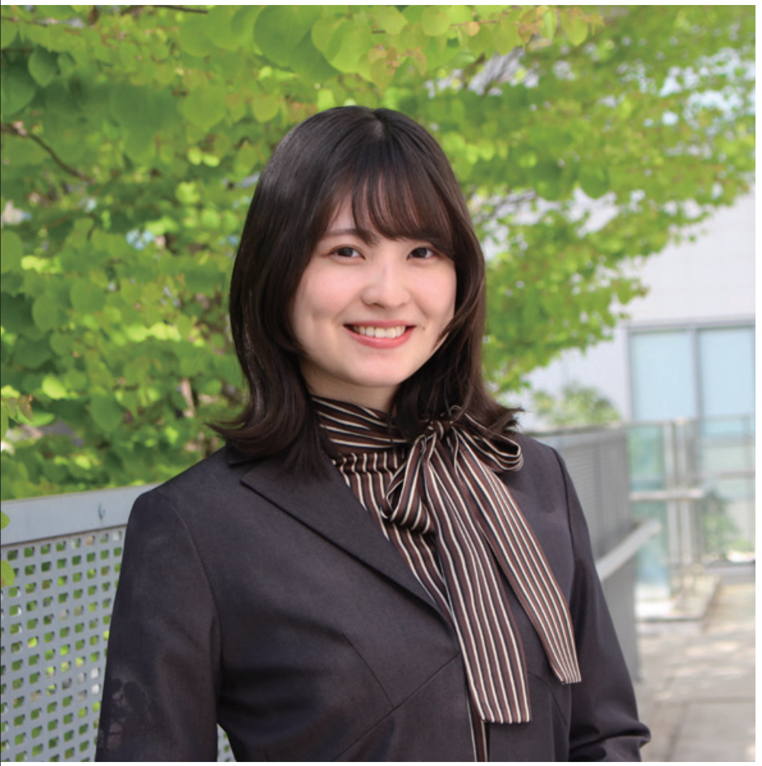
科目例　社会福祉原論、児童福祉特論、障害者福祉特論、ソーシャルワーク特論Ⅰ～Ⅳなど
〇「認定社会福祉士」研修受講について　社会福祉領域では、「認定社会福祉士」研修認証科目の一部を受講することが可能です。

リハビリテーション領域の専門科目

科目例　〇理学療法学　運動機能制御学特論、臨床理学療法学特論 など
〇作業療法学　生活障害作業療法学演習、機能障害作業療法学特論 など

専門科目（共通）　修士論文を作成します。研究指導は指導教員1名と指導補助教員1名の計2名があたります。

学生からのメッセージ



エビデンスに基づいた栄養管理を学び 臨床現場のリーダーとなることを目指して

大学４年生の頃、私は学部を卒業した後に病院で働くか進学するか悩んでいました。そんな中、臨地実習先の病院で、現状の栄養管理に満足せず、論文や学会発表から常に新しい知見を得て、積極的に日常の臨床業務に取り入れる管理栄養士の先生方に感銘を受けました。日々、科学は進歩しており、私たちは専門職としてそれに適応する責任があります。私は研究活動の必要性を改めて実感し、「論文を正確に読み解く力をつけたい」「自らの関心をエビデンスに基づいた形で世界に公表できるようになりたい」と強く感じました。私は今、研究の基礎を身につけるべく、毎日研究室に通っています。自身の研究活動はもちろんのこと、ティーチングアシスタントとして学部の授業に携わり、講義では多領域の学生を交えたディスカッションを通じて、自らの専門領域を超えた幅広い学びを実践しています。落ち着いて学ぶことのできる充実した環境の中で、日本の栄養学を牽引する先生方と深い関係を築き、多種多様なキャリアを持つ学生と共に切磋琢磨する日々は何ごとにも代え難い貴重な経験です。

栄養領域　吉川　日菜子さん

ソーシャルワーカーとしての ステップアップのために

私は本学を卒業し、大学病院でソーシャルワーカーとして勤務しています。一念発起して大学院へ入学し、今まさに「研究すること」について学んでいる途中です。まだ道半ばではありますが、私はソーシャルワーカーが「研究すること」は、自身の実践が「本当に最善と言えるのか」を、先達が積み重ねてきた学問の文脈に置き、吟味し、そこに新たな"何か"を積み上げる過程なのだと学びました。この過程を学ぶことは、現場で理論に基づいた実践を行うことや、実践課題を正確に捉え、より良い解決に導くことにもつながってきているように感じています。また入学後は同じ領域だけでなく他領域でも勉強で熱意のある素晴らしい仲間達と出会い、共に学ぶことができています。大学院での学びは必ずソーシャルワーカーとしてのステップアップに繋がると、本当にチャレンジして良かったと思っています。

私はプライベートでは２児の父親です。家族には感謝しきれませんが、本学には働きながら学ぶことができる仕組みがあること、何より先生方のご配慮によりなんとか両立することができています。

社会福祉領域　市川　賀一さん

修了生からのメッセージ

大学院は自分と対峙する時間 学びを新人看護教育に活かす

総合病院で夜勤ありの勤務をしながら、長期履修制度を利用して、3年間の学生生活を送りました。看護師として自分ができることを見つめ直したいと思い、入学しましたが、この3年間は自分と向き合う時間がたくさんあり、自分の思いや考えを言語化する力や理論的に物事を考える力を身に付けることができたと思います。また、エビデンスに基づいた臨床実践やチームでの協働、リーダーシップの重要性について深く学ぶことができました。

新人看護職員を指導する実地指導者についての研究を行い、人材育成や教育プログラムの立案や役割に合わせた教育的支援やサポート体制の構築が必要であると感じています。大学院での経験を活かし、現在は看護主任として、教育委員のメンバーとして、新人看護職員の研修やOJT教育に携わっています。

看護領域　大須　美貴さん

リハビリテーションのエビデンス構築を目指す 国際的に活躍する研究者を目指して

私は大学3年次から研究の魅力に惹かれ、大学院に進学したいと考えていました。4年次に行った卒業研究では、仲間と協力しながら積極的に研究活動に取り組み、在学中に学会発表を経験することが出来ました。卒業後には高度急性期病院に就職しましたが、経験則に基づいたリハビリテーション手法が多く行われている現状を目の当たりにし、エビデンスの構築が急務であると感じたことから、勤務開始2年目で大学院進学を決めました。2年間の学生生活では、勤務以外の時間を研究に注ぎ、国際学会での発表や、国際誌への論文投稿も行うことが出来ました。

本学大学院の特徴は、多様な分野の先生方、大学院生と交流を持つことが出来るところです。特に教員との距離が近く、勤務をしながらでも研究活動に没頭できる環境が整っている点は、非常に魅力的であると思います。今後は博士後期課程へ進学し、研究成果を確実に臨床現場へ届けつつ、国際的に活躍する研究者になることを目指して、研究活動に取り組んでいきたいと思います。

リハビリテーション領域　小久江　智耶さん

博士後期課程

取得できる学位	博士（保健福祉学）	Doctor of Philosophy in Health Services Research

教育理念

急激に進行する少子高齢社会等の到来を見据え、「保健・医療・福祉にかかわるヒューマンサービスの今日の実践・明日の実践・未来の実践を牽引し、先導することに資する教育・研究の推進」を教育理念として掲げています。

この教育理念に基づき、本教育課程においてヒューマンサービスの実践を「看護学」「栄養学」「社会福祉学」「リハビリテーション学」の観点から学問的に探究する対人援助の学問に取り組み、ヘルスケアとソーシャルケアの有機的連携を基盤とした科学的研究成果を産出することを目指します。

教育目標

01 保健福祉分野に関わる深い見識を備え、ヒューマンサービスの実践に対する倫理観と使命感をもって、サービスやケアの開発とその効果検証、保健福祉人材の育成や政策提言、健康寿命の延伸等に寄与する研究に取り組む研究者を育成する

02 保健福祉分野の諸問題について学際的かつ国際的な視点で現象を整理し、研究成果を活用できるとともに、ヒューマンサービスの実践を先導できる教育者を育成する

03 保健福祉分野の専門的知識や科学的根拠をもって多職種間のマネジメントや連携と総合化を牽引するとともに、研究能力を発揮して実践現場に変革を起こすことができる実践者を育成する

アドミッション・ポリシー

01 人や人を取り巻く社会に関する深い理解を求め、保健福祉学の発展に貢献する意欲のある人

02 保健・医療・福祉の課題を、科学的・論理的かつ多角的に研究するための基礎的な能力を備えている人

03 専門職や当事者と協働し、各種システムと連携して、課題を解決する素養を備えている人

04 地域社会の保健・医療・福祉分野のリーダーまたは管理者、教育・研究者、政策立案者として貢献する意志のある人またはそのようなキャリアパスを期待されている人

入学者選抜試験では、以上の観点に立って、主要論文及び今後の研究計画についてのプレゼンテーションにより専門知識などを、面接選考においては課題解決へ向けて意欲的に研究に取り組もうとする力を、総合的に評価します。

学位取得までの流れ 博士後期課程

	時期	博士論文	
1年次	4月	●入学	指導教員の希望
	5月		
	6月		研究課題決定
	7月		
	8月		研究計画立案・遂行
	9月		↓
	10月		↓
	11月	●研究中間報告会	↓
	12月		↓
	1月～3月	●研究計画発表会	↓
2年次	4月		↓
	5月	●研究計画の審査申請	↓
	6月	●研究倫理審査(必要に応じて)	↓
	7月		↓
	8月		↓
	9月		↓
	10月		↓
	11月	●研究中間報告会	論文の作成
	12月～3月		↓
3年次	4月		↓
	5月		↓
	6月		↓
	7月		↓
	8月		↓
	9月	●論文予備審査用論文提出	↓
	10月		↓
	11月	●博士論文審査申請書提出	↓
	12月		↓
	1月	●論文提出 ●最終試験	
	2月		
	3月	●論文公開発表会 ●修了	

※大まかな流れとなりますので、詳細については別途お問合せください。

教育カリキュラム

保健・医療・福祉分野において、新たなサービスやケアの開発、保健人材の育成や政策提言など、この分野の発展に寄与し、実践現場に変革をもたらす研究成果を産出する力を身につけることを目的としたカリキュラムを設定しています。

保健福祉共通科目

保健・医療・福祉の全体的な理解と総合連携の基盤になる理論・考え方、システムについて学びます。

科目例　対人援助特論（必修）、サービス評価研究特論、多職種連携システム開発演習など

保健福祉専門科目・保健福祉演習科目

保健福祉専門科目では、専門領域を科学的にとらえ、研究を推進するための知識や能力を獲得します。また、演習科目では、専門科目の学びを自らの専門性や研究テーマに関連づけ、より実践的に研究能力を高める内容を演習スタイルで学修します。

科目例
- ○看護系　成長発達期健康看護特論、療養期健康看護演習 など
- ○栄養系　食品健康科学特論、保健福祉栄養評価演習 など
- ○社会福祉系　医療社会福祉実践・政策特論、日英高齢者福祉政策論演習 など
- ○リハビリテーション系　リハビリテーション病態解析学特論、リハビリテーション認知学習行為学演習 など

保健福祉研究科目

博士論文を作成します。研究指導は、指導教員1名と指導補助教員の2名により行い、指導補助教員のうち1名は、指導教員と異なる専門系で、博士論文の指導を担当できる教員があたります。

授業風景

研究発表会

修了生からのメッセージ

研究生活について

私は、出産を取り巻く環境の大きな変化を踏まえた助産学実習の在り方について研究しました。少子化の進行や高年初産婦の増加などを背景に、助産師教育ではハイリスクな状況にも対応できる助産師の養成が意識されています。しかし、資格を有しておらず、経験が浅い助産学生にとって、ハイリスクな状況下に置かれる母子への対応は容易ではありません。そのため、私は、助産学実習の在り方を研究しようと考えました。

昼は教員として看護師・助産師基礎教育に携わり、主に夜間や休日を研究活動に当てました。特に昼夜休日問わず、学生対応にあたる必要がある助産学実習期間は、頭を切り替えることが難しく感じた時もありましたが、職場の上司や同僚に支えられただけでなく、研究中にも可能なリフレッシュ方法を編み出せたことで、この生活をなんとか乗り越えられました。

看護系修了 瀬谷 絵莉佳さん

神奈川県立保健福祉大学に入学を決めた理由は？

研究者として尊敬でき、指導を仰ぎたいと思える存在がいたことが1番の決め手でした。研究の質を高めるには、研究内容についての意見交換が大切だと考えています。この大学には、積極的に考えや思いを伝えることができる環境がありました。そして、私の話に耳を傾け、率直な意見をくださる教員が多くいてくださるおかげで、研究活動を進めることが出来たと感謝しています。

研究科の仲間について

看護系である私の同期には、栄養・社会福祉・リハビリテーション系と全領域の専門職が揃っていました。政策を考える課題に取り組んだ時には、全員で夜中まで奮闘したこともありました。直接会う機会は限られていましたが、院生同士の絆を実感していました。研究への意見交換だけでなく、様々な締め切りを確認し合うなど、一緒に修了することを目標に支え合いました。何時間でも語り合える個性豊かな同期に出会え、かけがえのない経験ができました。

学習環境について

修了に必要な単位取得に関わる科目の授業は、基本的に平日の夜間と土曜日に開講されます。ただ、時には平日の日中にも開講されるので、社会人である私たちにとって、オンラインでの授業や研究発表会が導入されていたことは、とても救いでした。また、事務手続きや研究発表会の運営など、大学院事務の方々がきめ細やかに対応してくださりました。指導教員以外の教職員の方々も、学内でお会いすると、声をかけ、研究の進捗状況を気にかけてくださりました。とても温かい研究環境に恵まれました。

博士後期課程修了までの3年間の各年次で取り組んだことと、アドバイス

	1年目		2年目		3年目	
取り組んだこと	5月頃	指導教員と研究計画の再検討	4月頃	研究①学術誌投稿/研究②倫理審査受審	7月頃	研究③データ収集終了
	11月頃	3年間の研究スケジュールの明示	11月頃	研究②専門家からの解析指導・学術集会発表/研究③倫理審査受審	9月頃	予備審査用博士論文提出締め切り
	1月頃	研究計画審査受審/研究①（文献レビュー・副論文）執筆開始	3月頃	研究の進捗確認とスケジュール調整	1月頃	最終審査用博士論文提出締め切り
アドバイス	3年間で新たな研究に取り組むため、入学後に時間をかけて研究計画を洗練する必要がありました。倫理審査受審にかかる期間などを逆算し、早めにスケジュールを整理することをお勧めします。3年間で修了するための予定表を指導教員に明示したことが、自分を律するのに有効でした。		学術誌への論文掲載は、博士後期課程の修了要件です。査読と修正を繰り返すため、採択までに時間を要します。早めの準備がお勧めです。また、2年目にはデータ収集が完了していることが理想です。		研究参加者のリクルートに苦戦し、データ収集に時間を要しました。9月には完成版に近い博士論文を執筆し、予備審査を受審しなければいけません。限られた時間の中で、新規性のある研究成果を出し、論文として形にするのはとても大変な作業です。指導教員と密にコンタクトを取り、定期的に進捗を報告し、指導いただきながら進めることがとても重要です。	

教員紹介

※氏名の下は、博士前期課程の研究指導に関わる教員の研究テーマです。博士後期課程では指導できる内容が異なる場合があります。どちらの課程も出願前相談の際に必ず募集要項を確認してください。
※担当教員及び研究テーマは変更になることがあります。

看護領域（看護教育学）

博士前期・後期課程担当 教授
宮芝 智子

看護基礎教育に関する研究／看護継続教育に関する研究／看護学生および看護職者の発達の支援に関する研究

看護領域（基礎看護学）

博士前期・後期課程担当 副研究科長・教授
水戸 優子

博士前期・後期課程担当 准教授
加藤木 真史

博士前期課程担当 講師
渡邉 惠

看護技術、技能の実証に関する研究／ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメントに関する研究／基礎看護学に関する研究／看護基礎教育における教授学習方法に関する研究／看護実践能力の向上に関する研究

看護領域（ウィメンズヘルスケア）

博士前期・後期課程担当 教授
村上 明美　谷口 千絵

博士前期課程担当 准教授
田辺 けい子　吉田 安子

妊娠・分娩・産褥・新生児の看護に関する研究／女性の健康と看護に関する研究／セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツと看護に関する研究／助産師の基礎教育および継続教育に関する研究

看護領域（小児看護学）

博士前期・後期課程担当 教授
川名 るり

博士前期課程担当 准教授
西名 諒平

健康問題を抱えた子どもと家族の体験と看護に関する研究／地域で生活する子どもと家族への支援に関する研究／小児看護の基礎教育および継続教育に関する研究／卓越した小児看護実践の言語化

看護領域（慢性看護学）

博士前期・後期課程担当 教授
髙橋 奈津子

博士前期・後期課程担当 教授
間瀬 由記

慢性的に経過する病とともに生活する人の看護や教育に関する研究／成人期にある患者とその家族の療養支援やQOLに関する研究／ベスト・サポーティブ・ケア、緩和ケアに関する研究／補完代替療法に関する研究

看護領域（療養生活支援看護学）

博士前期・後期課程担当 教授
間瀬 由記

博士前期・後期課程担当 准教授
黒河内 仙奈

健康寿命の延伸に関する研究／成人・老年期にある人とその家族の退院・療養・生活支援、地域包括ケア、QOL維持向上に関する研究／エンドオブライフケアに関する研究

看護領域（先端侵襲緩和ケア）

博士前期・後期課程担当 教授
野村 美香

博士前期課程担当 准教授
大場 美穂

博士前期課程担当 准教授
土井 英子

先端治療・侵襲性の高い治療を受ける患者・家族のケアに関する研究／周手術期・救急看護・クリティカルケアに関する研究／がんの診断・治療から終末期に至る療養過程の緩和ケアに関する研究／がん看護、急性期看護に関するチーム医療と継続教育に関する研究

看護領域（地域看護学）

博士前期・後期課程担当 教授
臺 有桂

博士前期課程担当 准教授
髙橋 佐和子　中山 直子

公衆衛生看護活動におけるデータ分析とその活用に関する研究／地域や在宅（の生活の場）におけるケアと多職種連携に関する研究／学校保健及び養護教諭の活動に関する研究（養護教諭専修免許取得可）／公衆衛生看護および在宅ケア人材育成に関する研究

看護領域（看護開発学）

博士前期・後期課程担当 教授
石原 美和

博士前期課程担当 准教授
松永 早苗

看護をめぐる制度・政策に関する研究／地域や病院・施設における看護システム・サービスの開発に関する研究／健康危機管理における看護に関する研究

看護領域（CNSコースがん看護）

博士前期・後期課程担当 教授
野村 美香

博士前期課程担当 准教授
小林 珠実　土井 英子

診断から終末期に至る療養過程における緩和ケアに関する研究／チーム医療・療養の場の移行における連携・調整に関する研究／患者・家族、医療者のストレス対処に関する研究／治療や療養の場の移行期にある患者・家族の意思決定に関する研究

看護領域（CNSコース小児看護）

博士前期・後期課程担当 教授
川名 るり

博士前期課程担当 准教授
西名 諒平

卓越した小児看護実践の言語化／子どもと家族の権利擁護、倫理的課題の解決に向けた研究／子どもと家族の看護に携わる看護職の質向上に関する研究／子ども・家族・医療機関・学校間などの連携・調整に関する研究

看護領域（助産実践コース）

博士前期・後期課程担当 教授
谷口 千絵

博士前期課程担当 准教授
田辺 けい子　吉田 安子

助産実践の課題解決に向けた研究／性と生殖に関する健康と権利に関連する当事者の支援に関する研究／助産実践における医療・福祉の連携・協働に関する研究／エビデンスのある助産実践を創出するための基礎的研究

栄養領域

博士前期・後期課程担当 研究科長・教授
鈴木 志保子

競技選手への競技力向上のための栄養サポートに関する研究／子どもの発育・発達に関する研究／生活習慣病の予防に関する研究

栄養領域

博士前期・後期課程担当 教授
田中 和美

高齢者の保健指導及び重症化予防の一体的実施に関する研究／介護予防と栄養改善に関する研究／認知症と栄養ケアに関する研究

栄養領域

博士前期・後期課程担当 教授
倉貫 早智

日本型食生活の有効性に関する研究／食品の機能性を活用した生活習慣病等の代謝改善に関する研究／若年女性の食生活改善に関する研究

栄養領域

博士前期・後期課程担当 教授
五味 郁子

入院患者の栄養管理に関する研究／高齢者の栄養管理に関する研究／栄養ケアの倫理に関する研究

教員紹介

※氏名の下は、博士前期課程の研究指導に関わる教員の研究テーマです。博士後期課程では指導できる内容が異なる場合があります。どちらの課程も出願前相談の際に必ず募集要項を確認してください。
※担当教員及び研究テーマは変更になることがあります。

学生募集要項は
大学Webサイトを
ご覧ください。

栄養領域
博士前期・後期課程担当　教授
向井 友花
疾病の予防・改善に役立つ食品や食品成分の探索およびその分子機構に関する研究／食品衛生管理（調理施設における微生物制御）に関する研究

栄養領域
博士前期・後期課程担当　教授
村越 智
栄養投与ルートが免疫に与える影響に関する研究／高度外科的侵襲時においても生体防御能を維持できる栄養投与法に関する研究／運動およびアミノ酸関連物質を用いた侵襲時の生体防御能改善に関する研究

栄養領域
博士前期・後期課程担当　教授
山西 倫太郎
ビタミンA（レチノール）による細胞抗酸化誘導について解析する／免疫機能およびアレルギー感作に対するビタミンAの影響について解析する

栄養領域
博士前期・後期課程担当　准教授
駿藤 晶子
AI（人工知能）を用いた食物摂取状況調査の妥当性に関する研究／精神疾患患者の食生活および食意識改善に関する研究

栄養領域
博士前期・後期課程担当　准教授
遠又 靖丈
ヘルスサービスの事業評価（効果評価など）に関する疫学的研究／老化（生活機能低下、認知症など）における栄養学的な予防因子に関する疫学的研究／食事パターンに関する疫学的研究

栄養領域
博士前期課程担当　講師
飯田 綾香
学校における食育の推進に関する研究／特別支援学校における児童生徒の栄養状態・栄養管理に関する研究／病態モデル動物を用いた肝疾患の栄養療法に関する基礎的研究

栄養領域
博士前期課程担当　講師
片岡 沙織
女性アスリートに対する栄養サポートに関する研究／パラアスリートに対する栄養サポートに関する研究

栄養領域
博士前期課程担当　講師
樋口 良子
嚥下調整食の調理法に関する研究／地域における防災・災害時食支援に関する研究

社会福祉領域
博士前期・後期課程担当　教授
新保 幸男
子ども家庭福祉に関する実践研究・政策研究／社会福祉学理論、ヒューマンサービス理論に関する研究

社会福祉領域
博士前期・後期課程担当　教授
髙橋 恭子
医療福祉、医療ソーシャルワークに関する研究／社会福祉実践の歴史に関する研究

社会福祉領域
博士前期課程担当　教授
玉川 淳
保健医療福祉の連携に関する研究／保健医療福祉人材の確保に関する研究

社会福祉領域
博士前期・後期課程担当　教授
中村 美安子
地域生活継続支援と環境整備に関する研究／住民福祉活動及び活動拠点に関する研究

社会福祉領域
博士前期・後期課程担当　教授
西村 淳
社会福祉の法と制度に関する研究／社会福祉政策に関する研究

社会福祉領域
博士前期・後期課程担当　教授
行實 志都子
ピアサポートに関する研究／ソーシャルワーカーのためのキャリアラダーに関する研究／精神障害者の就労支援に関する研究

社会福祉領域
博士前期課程担当　准教授
在原 理恵
障害者の地域居住における当事者の自律性と社会関係に関する研究／地域居住サービスを行う法人・事業所のアドミニストレーションに関する研究

社会福祉領域
博士前期・後期課程担当　准教授
大島 憲子
在宅医療・介護連携及び家族支援に関する研究／認知症施策と認知症ケアの質の向上に関する実践研究

社会福祉領域
博士前期課程担当　准教授
岸川 学
自閉スペクトラム症児・者とその家族への地域社会を基盤とした生活支援に関する研究／コミュニティ・ソーシャルワークに関する研究"

社会福祉領域
博士前期課程担当　准教授
吉中 季子
女性と子どもの貧困に関する研究／困窮者支援に関する研究／社会保障制度と貧困に関する研究

社会福祉領域
博士前期課程担当　講師
種田 綾乃
障害者当事者活動・ピアサポート活動に関する研究／地域精神保健医療福祉に関する調査研究・実践研究

リハビリテーション領域(理学療法学)
博士前期・後期課程担当　教授
菅原 憲一
運動制御機構に関する筋電図学的研究／運動学習に関する電気生理学的研究／各種動作および動作障害に関わる筋電図学的研究

リハビリテーション領域(理学療法学)
博士前期課程担当　教授
仙波 浩幸
精神障害者における身体的リハビリテーションに関する研究／精神障害者における理学療法評価に関する研究／身体活動が精神障害者の精神機能へ及ぼす影響に関する研究

リハビリテーション領域(理学療法学)
博士前期課程担当　准教授
内田 賢一
呼吸理学療法の作用機序に関する研究／高齢者の身体活動量に関する研究／理学療法士を目指す学生の職業適性に関する研究

リハビリテーション領域(理学療法学)
博士前期課程担当　准教授
島津 尚子
片麻痺者のバランス・歩行に関する研究／切断者のリハビリテーションに関する研究

リハビリテーション領域(理学療法学)
博士前期・後期課程担当　准教授
鈴木 智高
二重課題法による歩行中の注意需要評価に関する研究／歩行制御および姿勢制御に関する研究／随意的筋弛緩時の運動制御に関する電気生理学的研究

リハビリテーション領域(理学療法学)
博士前期・後期課程担当　准教授
平瀬 達哉
疼痛を抱えた地域高齢者の転倒予防に関する研究／サルコペニア・フレイルと疼痛の関連性に関する研究／生活期リハビリテーションの効果検証に関する研究

リハビリテーション領域(理学療法学)
博士前期課程担当　准教授
藤田 峰子
臨床における物理療法機器の安全管理に関する研究／骨盤底筋に関する研究／尿失禁に対する電気刺激療法の有効性に関する研究

リハビリテーション領域(作業療法学)
博士前期・後期課程担当　教授
笹田 哲
小児領域の作業療法に関する研究／対象者の役割やＱＯＬに関する研究／人間作業モデルの評価、介入に関する研究

リハビリテーション領域(作業療法学)
博士前期・後期課程担当　教授
奥原 孝幸
精神障害領域における作業療法に関する研究／精神障害者のリハビリテーションに関する研究／認知行動療法を用いた臨床実践的研究

リハビリテーション領域(作業療法学)
博士前期・後期課程担当　教授
白濱 勲二
脳損傷者・高齢者における運動・認知機能に関する研究／上肢機能訓練に関する研究／リハビリテーションの効果に関する研究

リハビリテーション領域(作業療法学)
博士前期課程担当　准教授
長山 洋史
作業療法の効果と費用効果に関する研究／レセプトデータ，カルテデータなどの臨床データ分析

リハビリテーション領域(作業療法学)
博士前期課程担当　准教授
渡邊 愛記
乳がん患者およびサバイバーの精神的健康に関する研究／脳血管障害患者の生活動作支援システムの開発および研究／認知症の活動の質と意思決定に向けた有効な支援に関する研究

リハビリテーション領域(作業療法学)
博士前期課程担当　講師
小河原 格也
フレイル予防に関する研究／高齢期・地域領域の作業療法に関する研究

共通分野
博士前期・後期課程担当　教授
津田 学
栄養ゲノミクスおよび栄養遺伝学を用いた研究／ショウジョウバエの飢餓応答に関する研究／ショウジョウバエを用いた脂質代謝の研究

共通分野
博士前期・後期課程担当　教授
木村 芳滋
線虫を用いた慢性疾患の発生機序に関する研究／線虫を用いたストレス応答に関する研究／線虫を用いた生体分子の局在イメージングに関する研究

共通分野
博士前期・後期課程担当　教授
成 耆鉉
昆虫生体の透明化技術開発／アメリカミズアブの飢餓超耐性の分子機構の研究／ショウジョウバエ一生まるごと記録装置の開発とその応用

共通分野
博士前期・後期課程担当　教授
深沢 和彦
インクルーシブ教育の推進に関する研究／教師の指導行動と児童生徒の適応感に関する研究／学級集団づくり及び教員組織づくりに関する研究

共通分野
博士前期・後期課程担当　准教授
生田 倫子
家族に関する心理学の基礎・実践研究／臨床カウンセリングの基礎・実践研究／組織のコンサルテーションに関する実践研究

共通分野
博士前期・後期課程担当　准教授
城川 美佳
小児の健康リテラシーに関する研究／在日外国人を対象とした感染症に関する情報提供のあり方に関する研究／学校における健康教育に関する研究

共通分野
博士前期課程担当　准教授
志村 華絵
白血病細胞の分化増殖抑制に関する研究／貧血の病態生理に関する研究／高齢者と幼児の世代間交流が両者に及ぼす影響に関する研究

共通分野
博士前期・後期課程担当　准教授
福田 平
心疾患患者のサルコペニアとバイオマーカーに関する研究／心房細動を含む心臓手術患者における遺伝子などに関する研究／健常人および心疾患患者の運動時血行動態などに関する研究